



のぶすま

2010年春号

Vol. 22

「のぶすま」とは、ムササビの古い呼び名です。高尾山に住む人気者のムササビにあやかっつて、「のぶすま」とつけました。

だいたいだいたいな サクラ です

みなさんもよくご存じのサクラ

そこには多くの生き物たちがやって来ます
サクラは生き物たちの命をつないでいるのです



ミツバチの仲間
花から花へ花粉や蜜を集める彼らは、大事な花粉の運び手です。



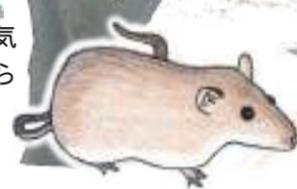
メジロ
花の蜜を吸いにやって来ます。



ヒヨドリ
花の蜜や果実が好物です。花粉や種の運び手になります。



ガの仲間
幼虫は葉を食べます。こうした昆虫は他の動物の大切な食べ物にもなります。



アカネズミ
巣に食べ物を貯蓄する習性があります。食べ忘れの種が発芽することがあります。

ウメノキゴケ
樹皮に付着して育ちます。大気汚染の環境指標生物として知られています。



桜餅を包む葉・工芸品・木材の原料
人間も花見や食べ物、工芸や木材など、様々な目的でサクラを利用しています。

◆ サクラをとりまく生き物たち

◆ 花を食べる生き物

サクラは花粉や蜜を食べ物として動物に提供する代わりに、彼らに花粉を運ばせて、受粉を助けてもらいます。



ムササビ
枝を食いちぎって花や葉を食べます。食べ残しは地面へ落とします。

◆ 葉を食べる生き物

葉はサクラ自身の命を維持するために必要ですが、ガの幼虫には葉を食べてしまうものもいます。葉にある蜜腺は甘い蜜でアリを呼び寄せます。アリは他の昆虫などを捕食するので、蜜にやって来たアリは、サクラの葉の食害を防ぐ用心棒になるわけです。



アリの仲間
葉の生長による蜜腺の減少と、捕食対象の生長につれてアリの捕食は減っていきます。

◆ 実を食べる生き物

サクラは種が入った果実を動物に食べさせたり、運ばせたりすることで種を遠くに広めます。排泄や食べ忘れによって残った種が世代をつないでいくことになり、ハトの仲間もサクラの果実が好物ですが、種は砂嚢で粉々にされずに残る種もあります。



キジバト
砂嚢に入っている砂などで食べ物を消化します。消化されずに残る種もあります。

◆ 樹幹にすむ生き物

幹は生き物のすみかにもなります。ウメノキゴケは地衣類(菌類と藻類の複合的な生き物)の仲間です。樹皮や石の表面などで育ちます。立ち枯れになった幹は、キツツキの仲間などの巣に使われます。命を終えたサクラも、他の生き物の役に立っています。



コゲラ
樹木の枯木にくちばしで穴を開けて、子育てのための巣を作ります。

高尾山4コマ漫画 その14

解説員アラツの挑戦!

あまりにも人間的の巻

作・画: ばん



季刊高尾ビジターセンターニュースレター
「のぶすま」 2010年春号Vol. 22
東京都高尾ビジターセンター自然解説員作成
2010年4月1日発行
所在地: 〒193-0844東京都八王子市高尾町2176
電話: 042-664-7872 FAX: 042-662-9926
URL: <http://www2.ocn.ne.jp/~takao-vc/>
(カラー版最新号を閲覧できます)

◆購読の方法
80円切手と封筒(※宛先に送付先の郵便番号・住所・氏名を必ず記載してください。)を送付希望分同封し、上記ビジターセンターまでご郵送下さい。



「のぶすま」は高尾山頂にある高尾ビジターセンターにて配布しております。ご希望の方は窓口へお申し付けください。

